

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	22快適な公園・緑地環境の整備		
施策のねらい(めざす姿)	市民と行政が一体となって自然の緑地を保全し、さらに緑の空間の創造に取り組んでいます。		
基本目標	2「自然と社会が調和する環境共生都市」をめざして	施策担当マネージャー	都市建設部次長
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	マネージャー氏名	鎗田 淳

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	公園や緑地を適正に管理していくためには、年々増加する管理コストの抑制が必要となる。	③改革・改善内容	公園・緑地の維持管理に多くの市民が積極的に参加できる仕組み(公園サポーター制度)を拡充していくとともに、公園施設に関しては、修繕・更新費用の平準化を図り、効率的な維持管理を進める。
②①に基づく取り組み結果	・施設の修繕・更新費用の平準化のため、公園施設長寿命化計画を策定した。 ・公園サポーター制度の活用により、地域住民との協働による管理を行った。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	都市公園 ふれあいの森	意図(対象をどうするのか)	心安らぐ快適な都市環境を確保する。
②施策の概要	①都市公園の計画的な整備。 ②市内の良好なみどりの保全。 ③都市公園及びふれあいの森の適正な維持管理。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	①公園整備や緑地保全のため、積極的な施策の展開が求められている。 ②都市公園やふれあいの森の適正な維持管理が求められている。 ③都市公園数の増加や既存施設の老朽化に伴う維持管理費の増加。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25～26年度の施策の成果	栗野地区公園(第一期)及び川慈公園の整備により、良好なみどりを保全するとともに、快適な公園・緑地環境を提供することができた。また、東道野辺ふれあいの森の用地購入(一部)を行った。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値(27年度)
	i	市民一人あたりの公園面積	m ² /人	2.27	2.81	2.90	3.3
	ii						
	iii						
③基本事業成果指標	i	市民一人あたりの公園面積	m ² /人	2.27	2.81	2.90	3.3
	ii	公園等サポーター数	人	32	33	34	29
	iii						
	iv						
	v						
	vi						
④施策の事業費	平成25年度決算	平成26年度決算	市民一人あたり事業費(26年度決算)	平成27年度予算			
事業費(千円)	316,491	413,377	(単位:円)	3,805	円	396,909	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	公園整備や緑地保全のため、積極的な施策の展開が求められている。		
②総合評価	2概ね達成	③総合評価の理由	栗野地区公園第一期整備区域等の開園により、市民一人あたりの公園面積を増やすことができた。

V 今後の方向性

①成果の方向性	→維持	②コストの方向性	→維持
③特に重点化する事務事業	地区公園整備事業		
④上記方向性の説明	栗野地区公園の第一期整備区域開園に続き、第二期整備区域の早期完成の要望が強い。		